

平成 25 年度 わくわく市民懇談会

- 1 日 時 平成 2 5 年 5 月 1 3 日 (月) 午後 7 時
- 2 会 場 豊田人権センター 1 階会議室
- 3 出席者 ふるさと虹の会 13 名、
市長、人権・男女共同参画係長、随行職員 2 名
- 4 次 第 (1) 開 会
(2) ふるさと虹の会 会長あいさつ
(3) 市長講話『これからの中野市』
(4) 質疑応答・意見交換会
(5) 閉 会 (午後 8 時 55 分終了)

冒頭のあいさつ

○市長になり5ヶ月が過ぎ、まだ頭の中を整理しきれてない状態で心の中では何から手をつけていいか焦りはあるのだが、PDCAという言葉があるように計画(=Plan)をたてて実行(=Do)してチェック(=Check)して本格的にアクション(=Action)を起こすという云わばホップステップジャンプの様な4段階に物事を考えることなのだが、市の政策も同様と思っている。私は今年はPlanの年と考え、プランニングして試しや機会を探ったり関わってみて、来年の市の実施計画にむけ本格実施の作業段階として心を落ち着けている。とはいっても、すぐやらなければならないこともあるので、私がいま考えていることを皆さんにお話ししようと思う。

1 変化への対応

○人口減少、少子高齢化社会

- ・長期的展望としては人口減少や高齢化してくこれからの地域社会を課題先進国である我国がどう対応するか世界が注目している→この課題を克服し、そのノウハウやシステムを世界に発信すれば、評価されるだろう
- ・それらを実践するのは地域社会なので、支え合い助け合っていくために、もっと視点を広げて広域で物事に取り組んでいく交流と連携と共同=コラボレーションという考え方が必要だろう

○北陸新幹線開業

- ・短期的課題としてはもう2年切った北陸新幹線開業の問題で、これに対応し動かなければならぬ→何もしなければどんどん遅れ、やった所は活性化してく事は実証済なので取り組む必要がある
- ・北陸の観光客が北信州(信越自然郷)へ→人流・商流の増加により経済活性化され、地域が元気になるので良さを売り込む(例:長野県は日本一長寿だから分析や証拠をとって長寿の里として世界発信する等)
- ・野沢とか山ノ内とか各地域毎で考える時代は終わった。みんなでそのエリアの良さを考えて繋いで地域全体が活性化することを考えよう→9市町村は上信越高原国立公園エリア全体を見て取り組んでほしい。大きな目でみることで違うもの考え方が変わってくる
- ・時間と距離の変化
飯山から金沢に1時間で行ける(長電の中野~長野間と同じ)→その分人の移動が激しくなる→地域でも地方でもなく都市と連動している→感覚を変え慣れる→その新しい感覚で商品開発をしてほしい
- ・「旅の形・感覚」の変化
観光→旅行へ→以前は「消費文明」(大都市などで物を売ったり物がある華やかな場所)が人気だったが、これからは「生産文明」(ものづくりの場所)へ人が帰ってくる。ものづくりの大変さを見ることで感動を憶えたり製作を見たい体験交流するツーリズムが人気

2 中野市のポテンシャル

○中野市の可能性

- ・ 自然環境、人文環境、産業立地に恵まれているので、資源をみなおそう、新たなコンセプトをつくろう→情報発信が必要

○中野市の豊かな観光資源

・

3 地域ブランドコンセプト

○ブランドとして確立している地域とは

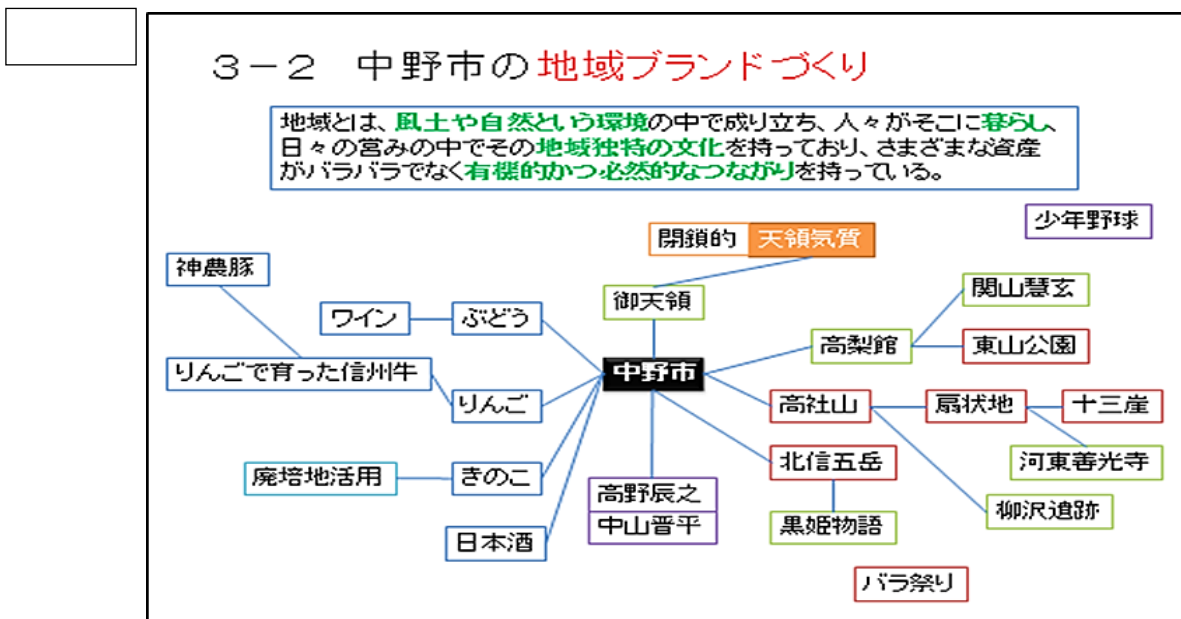
- ・ 連想・発信の仕方

例：伊藤園の「おいお茶」やサントリーの「伊右衛門」のように、その物だけで広く知れ渡っているイメージ戦力→豊かな連想（ストーリー）を考え、宣伝に繋げる作業

- ・ 名前を聞いただけでその場所の景観が浮かび、名所や特産品が連想される
- ・ 他と差別化できるような自分が思うことを感性豊かにして発信する

○中野市の地域ブランド作り

- ・ 風土、自然、暮らし、独特な文化、、、連想ゲームをして考える→共通のワード（ブランド）が見えて繋がってくる



○中野市の地域振興におけるコンセプト

○シティーセールス戦略

- ・ ブランドストーリーをフルセットで売りこみたい→中野市のブランドイメージを高めて市内総生産や経済性豊かになる→魅力を発信する＝ブランドコンセプトの共有
- ・ 信越自然郷の9市町村の共通テーマ「千年風土の豊穡の地 信越自然郷」→中野のキャッチフレーズ「日本の黎明期 農耕栽培をはじめた豊穡の土壌 豊穡は唄となり、やがて童謡と唱歌の故郷、自然と共生する暮らしのある、癒しの地となった」

○地域を豊かにする経営思想

- ・私たちはこの地域に自負も持たなければならない→歴史も必要である

4 地域力アップ総合戦略

○地域のコンセプト

- ・ブランドを作るなら地域・地区の良さをブランドを作る共通認識で持っていてほしい→寄せ集まって中野市のブランドの総体的になって信越自然郷での中野の存在価値＝立ち位置が出てくる

○地域力

- ・「地域力・地区力」が必要

地域の構成員が、自らその問題の所在を認識し、自律的に協働を図りながら、地域としての価値を創造していくこと→目的を持ってそのために協働して何かをやろう

- ・その地域にしかない価値をもう一度見直す



◆◆質疑応答・意見交換◆◆

(質問1) 豊田農産物直売所について

・近い将来、道の駅内に異動すると聞いたが、今後どうなるのか。

(回答1) 副市長にあり方について整備を進め、検討を進めてもらっている。

指定管理者にイニシアチブが持たせられるようなやり方はできないだろうかと考えている。自由な発想を発信できる場になってほしい。

これから交渉することなので、具体的なことは申し上げられないが、一企業として収益、還元できるような体制を取りたい。

(質問2) 道路の状況について

・117号線の開通見込み、笠倉橋の現況と今後の見込み等について

(回答2) 急がなければならないことは県も承知している。自分達の利益だけを考えているのではなく、北信地域全体のことを考えるとやってもらわなければならない。道路を整備することによって、人の流れが変わってくる。重要視している。

(質問3) いのちの学習について

・豊田中学校の授業の一環として計画された、「うさぎっ子」での体験を通したいのちの学習について、市から断られたとのことだが、柔軟な対応をお願いしたい。

(回答3) 子どもの親のことを考えれば実現は難しいかと思う。物を育てるとか、作るとか違った面でも間接的にいのちの大切さを学ぶことはできる。断ったのは、前例がないということではなく風疹の感染が心配、利用者の同意が必要等の理由もあったと思う。やる意味とリスクとのバランスを考えての担当者の決断だったのではないか。

(質問4) 男女共同参画について

・市では中野市男女共同参画計画を策定しているが、市の体制はどうか。嘱託職員として勤めていたが、法律で制定されている育児支援に関して誰も申請しておらず、また、残業をしていたりしており、子育て環境が整えられていない。

(回答4) 法的理解を徹底しておかなければいけないし、休暇等が取れていないようであれば、取れるような工夫をしなければいけない。これから人事異動や職員採用時には注意する。産前産後休暇、育児休暇等を整備することによって優秀な人材も集まってくる。計画を作ることが仕事でなく、計画どおりにやることが重要であり実施していく。能力ある人や向上心がある人には機会を与えたい。これからは女性社会になるのだから。